

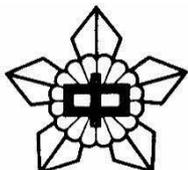
令和6・7年度 熊本県教育委員会指定 「熊本の学び」プロジェクト校

本校では、令和6・7年度、熊本県教育委員会より「熊本の学び」プロジェクト校の指定を受け、「授業力向上」「E S D」をテーマに研究を進めています。今回、ささやかではございますが、現時点での研究の一端を公開することとしました。皆様方の御意見・御指導を賜りながら、さらに研究を深めたいと存じます。

【研究主題】

「できた」「わかった」を通して主体的に学ぶ生徒の育成
～E S Dの視点を踏まえた授業づくりと支持的風土づくりの適切な評価を通して～

【研究の構想】



菊池市立菊池南中学校



①授業づくり部会の取組

★がついている箇所には、デジタル資料を掲載しています。

二 次 元
コ ー ド



【これまでの実態・課題】

- 令和5年12月に実施した熊本県学力・学習状況調査及び菊池市学力・学習状況調査の結果、ほぼ全ての教科で県平均・市平均を下回る。
- 教師主導の一斉授業が多く、生徒の主体的な学びを促す授業づくりができていない。

【仮説1】

E S Dの視点を踏まえて、ゴールに向かって主体的に学びを進めていく授業実践、対話的な学びを意識した授業実践を行うことで、学ぶ喜びを得て主体的に学習に取り組むことができるであろう。

【取組の実際】

4月 <全校集会> 生徒と教師で学校の取組や授業の受け方を共有した。★1

研究に関する全校集会を計画的に実施

5～6月 <主体的な学びに関する全員研修> ★2
・研究テーマの確認 ・西留安雄先生による授業参観及び模擬授業

7月 <授業実践①（総合訪問での全員授業）>
共通実践① 全ての授業における班活動の実施
共通実践② E S Dの視点を踏まえた単元デザイン

第1回授業づくり部会

7月の全員授業を受けて今後の授業づくりの見通しを持った。

①学習構想案の形式についての検討 ②共通実践の検討

8月 <E S D・「熊本の学び」に関する全員研修>

講師：スーパーティーチャー 七城中学校 西田 拓人 指導教諭

講師：福岡教育大学 石丸 哲史 副学長 教育学部長

段階的に視点を設定した授業実践

8月 <全校集会> 主体的な学び、E S Dについて考え、共通理解を図った。

部会で検討したことを生徒と共有

9月 <授業実践②（大研 社会科）> ★3
視点① 生徒が主体的に学ぶための単元を通じた展開の工夫
視点② 生徒同士の対話の必要性を高めるための学習形態の工夫

第2回授業づくり部会

①「主体的・対話的で深い学び」について ②共通実践の検討

11月 <共通実践の決定及び実践開始> ★4
【1 「わくわく」が生まれる単元デザインの工夫】 【2 生徒が自己選択する場面の設定】
【3 考えを参照・共有できるようなICT活用の工夫】 【4 E S Dの視点を踏まえた評価】

大研や部会で決めた共通実践を

12月 <全校集会> 8つの資質・能力と未来創造タイムについて共通理解を図った。

12月 <探究的な学びに関する全員研修>
講師：東京学芸大学 登本 洋子 准教授

【取組の成果・今後へ向けて】

授業づくり部会として、生徒の主体的な学びにつながる授業力向上のために、生徒と教師がともに歩んでいく段階的な授業改革を行ってきた。今後は、生徒と一緒に取組について考え、生徒を主語とする授業づくりや共通実践を進めていきたい。

②なかまづくり部会の取組

★がついている箇所には、デジタル資料を掲載しています。

二次元
コード



【これまでの実態・課題】

- ・令和6年4月実施のi-check結果より「学級の絆」では、2学年が全国平均を下回り、また、「対人ストレス」では、32.1%の生徒が困り感を感じている。
- ・人間関係を起因とする不登校生徒が増加し、不登校の出現率が10%を超えている。

【仮説2】

E S Dの視点を踏まえて、支持的風土の醸成など、安心して学習するための環境整備を行うことで、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

【取組の実際】

第1回なかまづくり部会

生徒が主体的・対話的な学びを深めていく学習活動を進める基礎となるなかまづくりが必要。

- ① 全学年、毎週火曜日の帰りの会に「南中わくわくタイム」を実施。
- ② 初めは生徒が「南中わくわくタイム」での交流を楽しむことを大切に取り組む。

取組の共有

8月 <職員会議>

なかまづくり部会より提案し、全職員が「南中わくわくタイム」を体験する。

8月 <全校集会>

★1

なかまづくり部会リーダーより生徒に「南中わくわくタイム」を周知し、全生徒が体験する。

8月～ <「南中わくわくタイム」の実施>

★2

- ① 毎週火曜日の帰りの会でアクティビティ、エンカウンター等に取り組む。
- ② 長期休業前後や年3～4回の学活の時間を活用して、S S T、G W Tに取り組む。

実践と振り返り

10月 <「南中わくわくタイム」に関する生徒アンケートの実施>

- ① 全体では92.7%の生徒が楽しめていたが、1割を超える生徒が楽しめていない学年もあった。
- ② 「班活動以外ではあまりしゃべらない人とわくわくタイムを通して協力して仲良くなった」等の肯定的な意見もあったが、「特定の人としか話せない」「話が途絶えることがあった」等の困り感の訴えもあった。 ★3

第2回なかまづくり部会

目的を明確にした「南中わくわくタイム」の実施が必要。

- ① 生徒の実態や時期に応じた活動を取り入れる。
- ② 担任から生徒に対してその日の活動の目的を説明し、振り返りを行う。
- ③ 今後班づくりに関する共通理解、共通実践を深めていくための提案を行う。

アップデート

10月～ <「南中わくわくタイム」の実施>

★4

提案するレジメに目的と振り返りの流れを明記。

12月 <全校集会>

なかまづくりの目的や重要性について生徒と共通理解を図る。

【取組の成果・今後へ向けて】

11月に実施した生徒会選挙では、多くの立候補者が「南中わくわくタイムを生徒会として充実させたい」と公約を述べた。今後生徒主体の活動につなげていくために、まずその目的を生徒と共有し、なかまづくりへとつなげていきたい。

③評価づくり部会の取組

★がついている箇所には、デジタル資料を掲載しています。

二 次 元
コ ー ド



【これまでの実態・課題】

- ・ ESD で身に付けさせたい能力・態度を校訓と結び付け、具体的な目指す生徒の姿を設定し整理したが、それを評価するための基準やシステムなどがうまく位置付けられていない。

【仮説3】

ESDの視点を踏まえて設定した資質・能力を適切に評価することにより、生徒が自ら目指す姿と現状を捉えることができ、主体的に学習に取り組むことにつながるであろう。

【取組の実際】

教員間での資質・能力の共有

5～6月〈校内研究推進委員会〉

- これまでの研究の成果と課題の確認および整理
ESDの観点から「学校教育活動を通して重点的に育成を目指す資質・能力」（以下、8つの資質・能力）について、持続可能な社会の創り手として生徒の自覚が高まっているか、評価方法を検討し、数値的な伸びを目指す。

第1回評価づくり部会

- ESDの視点を踏まえた評価基準の必要性。
 - 教科で身に付けさせたい資質・能力をESDの視点で整理することが必要になる。

7月〈授業実践（総合訪問での全員授業）〉

- 7月に行われた学校訪問で学習構想案を作成する際に、8つの資質・能力の中から各教科で重点的に育成を目指す資質・能力を選択した。
→学習構想案に位置づけることができた。 ★ 1

8月〈職員会議〉

- ESDの視点を踏まえた評価を明確なものにするために、8つの資質・能力を教科においてどのように育成ができるのかを検討した。
→資質・能力系統表を作成することができた。 ★ 2

第2回評価づくり部会

- 資質・能力系統表の文言や内容について整理・検討。
 - 資質・能力系統表の文言の統一や内容について整理・検討し、修正をした。

資質・能力を生徒と共有

12月〈全校集会〉

- 8つの資質・能力を生徒と共有し、どのような学びの姿を目指していくのかを明確にし、共有した。
→全校集会で8つの資質・能力について具体的な学びの姿を生徒と確認し、授業の中でどのような学びを行うのか見通しを持つことができた。
→単元や題材、1単位時間の中で自分の学びについて評価する。 ★ 3

【取組の成果・今後へ向けて】

ESDの視点を踏まえた評価の基準を明確にし、生徒と共有していくことができた。今後は1単位時間、単元や題材、前期や後期など評価を行う時期や方法について検討し、位置付けた評価基準が妥当であるかを検証していく。